



狹
号
集
下

利9
2990





蘇百首歌子

雄也毛泥

世道行息



三痛のの神をまきえりまうり
まき思ひのをぬれり
松計ののまきえり

まきえりまうり
まきえりまうり
まきえりまうり

子目
まきえりまうり
まきえりまうり

まきえりまうり
まきえりまうり

小まのりいひくさきかきりまき

巖

平のまきくさぬまきとて船のまき
むさる威

いづれ海へて年よりおのまきぬまき

かきぬまきぬまきぬまきぬまき

真

けさぬまきぬまきぬまきぬまき
まきぬまきぬまきぬまきぬまき
まきぬまきぬまきぬまきぬまき
まきぬまきぬまきぬまきぬまき

粟とてはまきぬまきぬまきぬまき

魚いひまきぬまきぬまきぬまき

若草

あまのまきぬまきぬまきぬまき
まきぬまきぬまきぬまきぬまき
まきぬまきぬまきぬまきぬまき

いづれ海へて年よりおのまきぬまき

まきぬまきぬまきぬまきぬまき

残雪

あまのまきぬまきぬまきぬまき
まきぬまきぬまきぬまきぬまき
まきぬまきぬまきぬまきぬまき
まきぬまきぬまきぬまきぬまき

あはれおの英もあはれおの英が入る
あはれおの英もあはれおの英が入る

留房 命のまをくちしとてあはれおの
あはれおの英もあはれおの英が入る

あはれおの英もあはれおの英が入る

あはれおの英もあはれおの英が入る
あはれおの英もあはれおの英が入る

あはれおの英もあはれおの英が入る

あはれおの英もあはれおの英が入る
あはれおの英もあはれおの英が入る

あはれおの英もあはれおの英が入る

あはれおの英もあはれおの英が入る

らゝいゝのゑもくゝんち、乾らゝらゝり

苗代苗代鐵鬼のまゝに流をさす真

捨地の後物まゝのくそ田まゝに

苗代鐵鬼と人まゝのまゝに

葉 ちまゝまゝのまゝに

葉師まゝのまゝに漢しんまゝに

海まゝのまゝに

杜若のまゝに

水くゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝ

くゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝ

者茂 ばまゝのまゝに

くゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝ

肉まゝのまゝに

くゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝ

款冬 ばまゝのまゝに

くゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝ

2

山 草 新 井 水
三 月 廿 二 日 廿 二 日 廿 二 日 廿 二 日
山 草 新 井 水
山 草 新 井 水

山 草 新 井 水
山 草 新 井 水
山 草 新 井 水

山 草 新 井 水
山 草 新 井 水
山 草 新 井 水
山 草 新 井 水
山 草 新 井 水
山 草 新 井 水

六
備中一級活もむね地うにうり刀
早也二葉乃あふひなるしん

郭云
案後なしぬ種敷れむ向
あつししししし

八
夏にあふあふしすれはとくあは
ひら一葉にあらふまむれく先

一
葛蒲
ゆ刃を所しはゆはれれまき
らふにあてんししし

ち一はゆはれぬのようひはるよあて
草中酒刀乃しんあれまら

早苗
あまぬしるしし

ましよせあふあふしししあつらぬ
りの早苗うましししあ

照村
あまの葉あしし

新しりよりあふあふしししあ

灰よりのしほのなほゆるしきりぬ
まげのちもまよひてぬ
又五州ありけり首尾龍乃
海とあり

七三たまにうらみありぬ
まげ乃ひらりまらぬ

盧櫛

當時の時に禁庭の櫛ハ
ちりん全宗は平の業持
名みちりくへん新しと云
しへのりくへん

禁庭乃むさへ本所をさぬ
流りりくへんまらぬ

螢

ちりりまもちりん
海と龍火といへん
乃ちりそたあり

花降のちりりまらぬ
ちりりまらぬ

照燈火

ちりりまらぬ
ちりりまらぬ
ちりりまらぬ

家くれねぬ。蚊帳をさへあし
天くしぬあつたつらさ。

蓮 鮎の美を草花のつらさ

蓮にのびぬあつたつらさ
あつたつらさ

氷家 氷のつらさ
あつたつらさ

あつたつらさ

あつたつらさ

泉

あつたつらさ
あつたつらさ

あつたつらさ

あつたつらさ

あつたつらさ

夏時〜はぢぬ家〜のぬし

立秋 けこそ、是れは也

萩あめが、戸をくく、此や、故のら

〜は、何〜申すの、あ、何のら、〜

七夕 盃蘭を、並み、七月、〜、〜、〜、〜、

浮合の、〜、海、一首、の、〜、〜、〜、

入、並、ま、〜、〜、重、果、中、〜、〜、家、棚、〜、〜、に

じ、〜、秋、時、氣、の、足、乃、何、〜、〜、あ

萩

言の、〜、〜、〜、〜、〜、〜、〜、〜、

萩、は、人、よ、〜、〜、〜、〜、〜、〜、目、ま

神、〜、〜、〜、〜、〜、〜、〜、〜、

あ、お、の、あ、〜、〜、〜、七月、〜、〜、

萩

あ、お、の、あ、〜、〜、〜、七月、〜、〜、

人、〜、〜、萩、を、杖、と、〜、〜、〜、〜、

米、れ、出、〜、〜、〜、〜、杖、と、〜、〜、

女高枕のふらふらとむねをひらきつゝ
けのまをひきて男のあしをさぐるを
みまへしけくおれ秋乃夕風

落
秋乃野のさゆ蘭草の葉
さもみまへし

まのひよをせはまんとても秋のい
しきつゝ物の名もむちのさし

葎草
葎のふをちりうくちとて
られらうあまのれううや乃
てあまのまをうてはうくはうま

西へいもむねや実をたねあまの
あはるあひとてうもわうのあ

南
ち一首れきくそいこらも
さしひすそあまをくうらあ
ころうあおあはあまのあ
さあらのあやうああま
おぬつあくあ

あらうあまのたちほあまのあ
すああまのあまのあまのあ

原

おまへにあらたけなる
ははれよとせよとせよと
あともうとせよとせよ

小まへにあらたけなる
ははれよとせよとせよと

まへにあらたけなる
ははれよとせよとせよと

麻

麻の角をもちて
かぬむむむむむむ

将人乃うそ吹らや麻の角を

とととととととととととと

霧

おまへにあらたけなる
のちとととととととと

霧ハ神にいのちをたのむ

うまへにあらたけなる
おまへにあらたけなる

霧

おまへにあらたけなる
おまへにあらたけなる

霧昔れ霧流下りて
霧昔れ霧流下りて

霧昔れ霧流下りて
霧昔れ霧流下りて

模

いかにか酒のつゝさ下は縁

はれ家路をじりきうつれはひらか

ひる志がくもあはれくあさひ

駒逢の犬やけいもてけ

駒逢

向はくぬきふありま

是物とくし

きうれあいのちたもいあ

つひくひよいさうあめい

月

天人の餅ふるも中後

まおらしちらとあもこ

あしつる毎日わく

ふれちよと百姓の持

持衣

くつれうらあはれ

是の傍

百姓のうとあし

つらお便りよあし

忠

ちむちうのむん

俗にありて海なるうきやうき月
ひんちりし井いもよしとあれぬ

時雨

道狭わさの文をちりす
詠をしれりうり小猿はさう
とありはしりて度までおど
らん比の故中け解よやむる興

厨よ河を小猿乃尻のまらうき
まれ葉乃ほのほをさうあま

霜

鉄炮のきんせうしりり
うらめ

あーりりてさゆり鉄走る比鉄炮乃
きんせうしりりおあやまらん

霰

けあられ赤流のちりあれ
羽きの空をくたぬめり
うらめりあれりて

大元いよかお舞を切もせ
あられとあてあやまらん

心

氷室の文いり中文字とらぬ
あられりりりりりりり

此の文は、
しるし

雲の
雲

葉ありく
下焦り

鳥
あ

解
用

氷
あ

水
気

水
新造花

茶の良油煙油煎おとぬおとす
小登炭よそやあまのの

埋火 けいしちをいじり法書家の囲炉み
とる儀も扱きまふま

灰の中にお物のあらかるうらうら火を

しらをそやぐらとゆるらそら

除灰

早頃のらつ中巻とつた
心をとなやちたた城ハ
海とつらうらつたつと斗な
とる院の原とな

鬼のうら福をい外におらと

のひもつらよせらもら

けいしちをいじり法書家の囲炉み

袖意

と海をいじり法書家の囲炉み
多敷あつたつと斗な

対縁く

我におらとつらよせらもら

のひもつらよせらもら

悪意

と海をいじり法書家の囲炉み
多敷あつたつと斗な

旅意

旅意 ちかよふにけしむ
旅人とよこひ人かこひあつた
乃のよこよこにちかよふ

思

思 ちかよふにけしむ
思のちかよふにけしむ
の事よちかよふにけしむ

思 ちかよふにけしむ
思のちかよふにけしむ

思のちかよふにけしむ
思のちかよふにけしむ

思のちかよふにけしむ
思のちかよふにけしむ

思のちかよふにけしむ
思のちかよふにけしむ

恨

恨 ちかよふにけしむ
恨のちかよふにけしむ
あつたよちかよふにけしむ

恨のちかよふにけしむ
恨のちかよふにけしむ

恨のちかよふにけしむ
恨のちかよふにけしむ

曉

曉 ちかよふにけしむ
曉のちかよふにけしむ
あつたよちかよふにけしむ

かふめてく魚いり地くこりくき
うれあつらと結とみこり

松

ありおきてのふあ一首
きこくゆきこ

橋

そのまののちりも入海
浪りてぬこく又殊肌

竹

當時の禁別のこい
けりおはひくこり

竹の子とぬきまわるとこり

藪

持をうたひて

若

け君いつまをちり
むほあり

君のわが子せよいあ

うれくつ若のじり

山

この艱せれまき
むら

炎とくぬ

ちびちり

河 此の趣向甚だ妙也

法師こそなるれ事あはれ御座りしか
まづこそとてあはれこころ抱けり

鶯 出雲のゆかりにけりあはれ

れまのれ海や塩干れはまきひまは
あはれこころとてあはれこころ

野 葬送のこころをて下へ懐

世をなれと海流に及りて

坊よりこころをなれと海流に及りて

閑

まゝ年薄麻凍のこころは
結核あましくまゝに
そはまゝとてあはれこころ

かひめ付にまゝ井の底をうあはれ
たりのこころあはれまゝの年を

橋

まぎらふたあはれまゝに
あはれも橋をまゝあはれこころ

山入はくもや人の心かきむ

田家 二の夢高野者様

田れんくたやれはしし度れ
拾地乃る家の石に

懐旧

山母はあまののこらるる
忘れ物事いし縁結さく

おうらうまひうまひちうらうまひ
忘れさるる花くいらさく

夢

比蝶翁の夢未と夢を年と
けむ向まよひ夢を年と

金いろふ夢の甲あまし夢れゆ
さくさくもあし夢の甲さく

昔

あれ人の心り至るを詞の
縁ありおよくさくさく

死ぬるもくさくさくさくさく

うしふれ人のあはれをなす

稀園扇より英報社より

内々といふは英報社の

体懐

よく二三の女あつてあつたか
せんうううううううううう

かまひる持打痛りまにまに

と英報社とあつたまにまに

説

いふう又批判せうううう

かまひる持打痛りまにまに

と英報社とあつたまにまに

釋教

大坂乱の時一未書



わいのあいらんちやうらなれ流のりや
むちやうとありて大坂あつちやう
さんせん齋はようれちをーてま
ころぬハ女れあひよてくさーひ
けらとくさ
大坂のあはれも女のきたらうまぬ

大岡秀吉公の時時ちあむい音光
さのあまどあひしうらむいんもて
本岡利一公あつ吉光といふ人始末
お守いしうのあつしうらむいん
い

あひしうらむいんもて
もあむいんもてあむいんもて
い

うたて一巻上人

いあむいんもてあむいんもて
い

國師

をいんもてあむいんもてあむいんもて
い
たうまのあむいんもて
もろあむいんもてあむいんもて

あはれなる御心
を御覧なす
御心よ
あはれなる御心
を御覧なす

あはれなる御心
を御覧なす
御心よ
あはれなる御心
を御覧なす
御心よ
あはれなる御心
を御覧なす

御心

御心

御心

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 10 lines of text, starting with a large initial letter. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. It consists of approximately 10 lines of text, starting with a large initial letter. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged, yellowed paper. It consists of several lines of text, with some words appearing to be in a different language or dialect than others. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged, yellowed paper. It consists of several lines of text, with some words appearing to be in a different language or dialect than others. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

♪♪♪♪♪

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

♪♪♪♪♪

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is written on the left page of an open manuscript.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the left page. The text is written on the right page of an open manuscript.

Handwritten text in cursive script, likely a list or account, spanning the left page of the manuscript.

Handwritten text in cursive script, continuing from the left page, spanning the right page of the manuscript.

Handwritten text in Arabic script, consisting of several lines of cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of several lines of cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of several lines of cursive script.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of several lines of text, with some characters appearing to be in a different script or dialect than the surrounding text.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of several lines of text, with some characters appearing to be in a different script or dialect than the surrounding text.

Handwritten text at the bottom of the page, possibly a signature or a date.

171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200

201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230

Handwritten text in cursive script, starting with a large initial letter.

Handwritten text in cursive script, continuing the previous line.

Handwritten text in cursive script, consisting of several lines.

Handwritten text in cursive script, appearing as a single line.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a specific word.

Handwritten text in cursive script, appearing as a single line.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a specific word.

Handwritten text in cursive script, consisting of several lines.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

回

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

大周秀言と喜相といふは茶
 茶をうめく下ける時法なり
 茶をくみたるは茶を大周秀言
 小茶なり茶は茶といふは茶
 茶なり

南正業師は病失除の教を授け
 多より仏の法を授けり
 南正業師は病失除の教を授け
 多より仏の法を授けり
 南正業師は病失除の教を授け
 多より仏の法を授けり

ナナ

よのがえれりきうににぬれとけ
あ康云大坂の城古せりし時ちや
うすし古中ちんちあ物女の古母はあ
つらひの古はるむよとくお涙のよは
あらん

ああうは山にいひよあるあつらひに
あ物とのい袋ちちあ

あはれ
あはれ



